

**2022年度（2023年3月期）
第2四半期連結累計期間
（2022年4月～9月）
決算説明資料**

2022年10月25日
FDK株式会社

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

© 2022 FDK CORPORATION

2022年度第2四半期決算概要について、ご説明いたします。

1. 2022年度第2四半期の業績	
2022年度第2四半期連結決算概要	3
営業利益変動要因（前年同期比）	4
連結貸借対照表	5
セグメント別情報	6
2. 2022年度（通期）見通し	8

今回ご説明させていただき内容です。

2022年度第2四半期連結決算概要

FDK

(単位：億円)

	2021年度 2Q	2022年度 2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	305.7	317.3	+11.6	3.8%
営業利益 (営業利益率)	13.9 (4.6%)	6.7 (2.1%)	△7.2 (△2.5pt)	△51.8%
経常利益 (経常利益率)	13.0 (4.3%)	8.3 (2.6%)	△4.6 (△1.7pt)	△35.5%
四半期純利益※ (純利益率)	14.4 (4.7%)	5.8 (1.8%)	△8.5 (△2.9pt)	△59.5%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

1株当たり四半期純利益	41.79円	16.91円	△24.88円
-------------	--------	--------	---------

為替レート	(円/1USD)	109.92円	131.58円	+21.66円
	(円/1EUR)	131.18円	138.20円	+7.02円

ROIC※	4.4%	1.0%	△3.4pt
-------	------	------	--------

※ROIC = 税引後営業利益 / (自己資本 + 有利子負債)

※0.1億円未満切り捨て

© 2022 FDK CORPORATION

はじめに、連結決算概要です。

■ 電池事業の売上高はリチウム電池とニッケル水素電池が円安効果も加わって増加したものの、アルカリ乾電池の2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡に伴う海外向け売上減と設備関連ビジネスが減少したことにより、事業全体として減収となりました。電子事業の売上高は各種モジュールやスイッチング電源などが増加したことにより、事業全体として増収となりました。

この結果、売上高は前年同期に比べ11.6億円増加の317.3億円となりました。

■ 営業利益は各種モジュールの売上増や経費削減による利益増加がありましたが、原材料価格高騰の影響が大きく、前年同期に比べ7.2億円減少の6.7億円となりました。

■ 経常利益は前年同期に比べ4.6億円減少の8.3億円となりました。

■ 四半期純利益は鳥取県からの補助金収入2億円を特別利益として計上しましたが、前年同期に4.5億円の関係会社清算益を特別利益として計上したことや法人税等調整額の増加により前年同期に比べ8.5億円減少の5.8億円となりました。

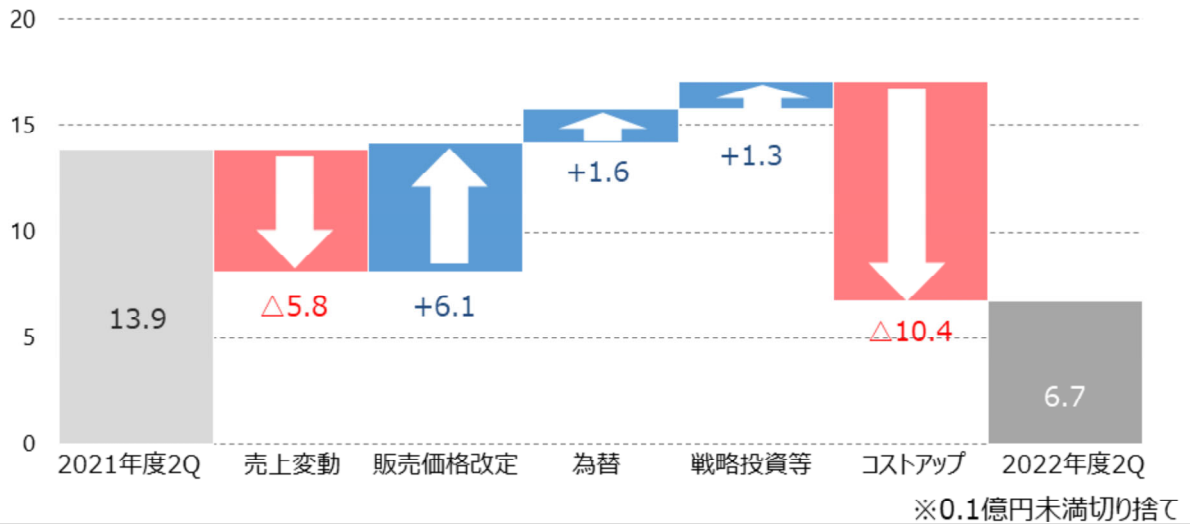
■ ROICは前年同期に比べ3.4pt減の1%となりました。

営業利益変動要因（前年同期比）

FDK

（単位：億円）

	2021年度 2Q	2022年度 2Q	前年同期比	
				増減率
営業利益 (営業利益率)	13.9 (4.6%)	6.7 (2.1%)	△7.2 (△2.5pt)	△51.8%



© 2022 FDK CORPORATION

次に、営業利益の変動要因です。

■国内外での在庫調整に伴う売上変動で5.8億円減益となりました。

一方、販売価格改定による6.1億円増益や為替影響の好転1.6億円増益、戦略投資等1.3億円増益となったものの、原材料価格高騰の影響による10.4億円減益の影響が大きく、前年同期に比べ7.2億円減益の6.7億円となりました。

連結貸借対照表

FDK

(単位：億円)

科目	2021年度	2022年度 2Q	増減	科目	2021年度	2022年度 2Q	増減
流動資産	319.9	324.5	+4.5	流動負債	314.5	307.9	△6.5
(商品及び製品)	(36.5)	(31.7)	△4.7	(支払手形及び買掛金)	(96.2)	(92.9)	△3.3
(仕掛品)	(25.8)	(30.0)	+4.1	(短期借入金)	(121.9)	(116.5)	△5.4
(原材料及び貯蔵品)	(44.1)	(46.8)	+2.6	(未払金)	(17.7)	(25.8)	+8.1
固定資産	149.0	153.4	+4.3	固定負債	29.9	30.9	+1.0
(有形固定資産)	(140.3)	(146.2)	+5.9	(その他固定負債)	(1.5)	(4.2)	+2.7
				負債合計	344.4	338.8	△5.5
				株主資本	124.5	130.3	+5.8
				(利益剰余金)	(△454.3)	(△448.4)	+5.8
				その他の包括利益累計額	0.0	8.6	+8.6
				(為替換算調整勘定)	(15.6)	(22.9)	+7.3
				純資産合計	124.6	139.0	+14.4
資産合計	469.0	477.9	+8.8	負債純資産合計	469.0	477.9	+8.8
自己資本比率	26.6%	29.1%	+2.5pt	有利子負債残高	123.4	117.6	△5.7

※0.1億円未満切り捨て

© 2022 FDK CORPORATION

次に、連結貸借対照表です。

■ 総資産は、前年度に比べ8.8億円増加の477.9億円となりました。

■ 流動資産は、前年度に比べ4.5億円増加の324.5億円、固定資産は前年度に比べ4.3億円増加の153.4億円となりました。

流動資産増加の主な要因は、材料不揃いによる生産遅延や、原材料価格の高騰、電子部品や樹脂部品の調達難に伴う戦略的な先行手配などにより、仕掛品や原材料及び貯蔵品などの棚卸資産が2億円増加したことによるものです。固定資産増加の主な要因は、有形固定資産が5.9億円増加したことによるものです。

■ 負債合計は、前年度に比べ5.5億円減少の338.8億円となりました。

■ 流動負債は、前年度に比べ6.5億円減少の307.9億円、固定負債は前年度に比べ1億円増加の30.9億円となりました。

流動負債減少の主な要因は、設備関連の未払金が増加した一方で、支払手形及び買掛金等の仕入債務が減少したことや、短期借入金の返済を進めたことによるものです。固定負債増加の主な要因は、長期前受収益などのその他固定負債が2.7億円増加したことによるものです。

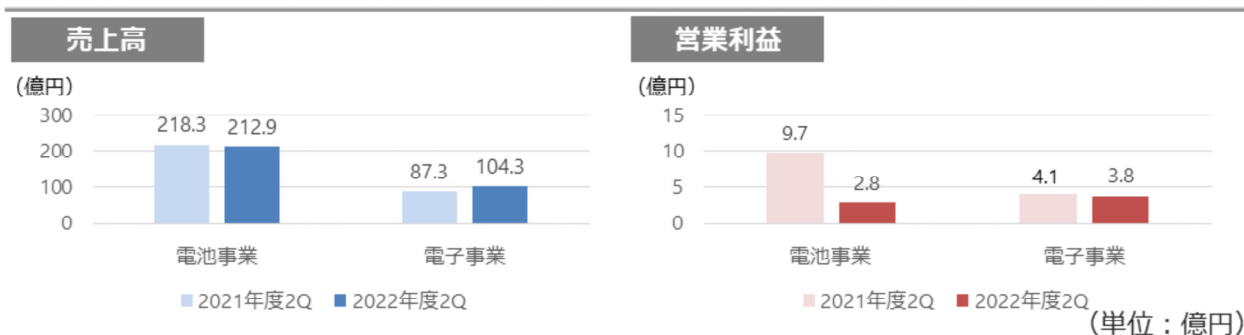
■ 純資産合計は、前年度に比べ14.4億円増加の139億円となりました。

純資産増加の主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより利益剰余金が5.8億円、為替換算調整勘定が7.3億円増加したことによるものです。

これらの結果、自己資本比率は、2000年度以降最も高い29.1%となりました。

■ 有利子負債残高は、主に借入金の返済により前年度に比べ5.7億円減少の117.6億円と2000年度以降最も低い水準となりました。

セグメント別情報



		2021年度 2Q	2022年度 2Q	前年同期比	
				増減額	増減率
電池事業	売上高	218.3	212.9	△5.3	△2.4%
	セグメント利益 (率)	9.7 (4.5%)	2.8 (1.4%)	△6.8 (△3.1pt)	△70.3%
電子事業	売上高	87.3	104.3	16.9	19.4%
	セグメント利益 (率)	4.1 (4.8%)	3.8 (3.7%)	△0.3 (△1.1pt)	△8.7%
合計	売上高	305.7	317.3	+11.6	3.8%
	営業利益 (率)	13.9 (4.6%)	6.7 (2.1%)	△7.2 (△2.5pt)	△51.8%

※0.1億円未満切り捨て

次に、セグメント別の情報です。

■ 電池事業の売上高はリチウム電池とニッケル水素電池が円安効果も加わって増加したものの、アルカリ乾電池で2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡に伴う海外向け売上と設備関連ビジネスが減少したことにより、前年同期に比べ5.3億円減少の212.9億円、セグメント利益は原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ6.8億円減少の2.8億円となりました。

■ 電子事業の売上高は各種モジュールやスイッチング電源などが増加したことにより、前年同期に比べ16.9億円増加の104.3億円、セグメント利益は円安や原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ0.3億円減少の3.8億円となりました。

セグメント別情報（売上概況）

FDK

(単位：億円)

		2021年度2Q	2022年度2Q	前年同期比	
					増減率
電池事業	売上高	218.3	212.9	△5.3	△2.4%
	セグメント利益 (率)	9.7 (4.5%)	2.8 (1.4%)	△6.8 (△3.1pt)	△70.3%
	■アルカリ乾電池	【減収】	2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡による海外向けや国内同業他社向けが減少		
	■設備関連ビジネス	【減収】	販売機種の変化により減少		
	■リチウム電池	【増収】	・国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調 ・販売価格の見直しや円安効果も加わった		
■ニッケル水素電池	【増収】	・国内の工業用途向けが堅調 ・販売価格の見直しや円安効果も加わった			
電子事業	売上高	87.3	104.3	16.9	19.4%
	セグメント利益 (率)	4.1 (4.8%)	3.8 (3.7%)	△0.3 (△1.1pt)	△8.7%
	■各種モジュール	【増収】	モビリティ・タブレット用途向けが増加		
	■スイッチング電源	【増収】	半導体装置用途向けが堅調		

※0.1億円未満切り捨て

© 2022 FDK CORPORATION

次に、セグメント別の売上概況です。

- アルカリ乾電池は2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡による海外向けや国内同業他社向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。
- 設備関連ビジネスは販売機種の変化などにより、前年同期を下回りました。
- リチウム電池は国内外で部品調達難による所要減がありました。国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調で販売価格の見直しや円安効果も加わったことにより、前年同期を上回りました。
- ニッケル水素電池は国内外で在庫調整やお客様側での部品調達難による所要減があったものの、国内の工業用途向けが堅調で販売価格の見直しや円安効果も加わったことにより、前年同期を上回りました。

この結果、電池事業全体の売上高は、前年同期に比べ5.3億円減少の212.9億円、セグメント利益は原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ6.8億円減少の2.8億円となりました。

続いて、電子事業については、

- 各種モジュールはモビリティ・タブレット用途向けが増加したことにより、前年同期を上回りました。
- スイッチング電源は半導体装置用途向けが堅調に推移し、前年同期を上回りました。

この結果、電子事業全体の売上高は、前年同期に比べ16.9億円増加の104.3億円、セグメント利益は為替や原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ0.3億円減少の3.8億円となりました。

2022年度（通期）見通し

FDK

（単位：億円）

	2021年度 （実績）	2022年度 （予想）	前年度比	
				増減率
売上高	614.5	630.0	+15.5	+2.5%
営業利益 （営業利益率）	20.8 (3.4%)	12.0 (1.9%)	△8.8 (△1.5pt)	△42.4%
経常利益 （経常利益率）	19.6 (3.2%)	10.0 (1.6%)	△9.6 (△1.6pt)	△49.2%
当期純利益※ （当期純利益率）	7.4 (1.2%)	7.0 (1.1%)	△0.4 (△0.1pt)	△5.5%
※親会社株主に帰属する当期純利益				
1株当たり当期純利益	21.47円	20.29円	△1.18円	
為替レート（円/1USD）	112.08円	130.00円	+17.92円	
（円/1EUR）	130.56円	135.00円	+4.44円	

※0.1億円未満切り捨て

© 2022 FDK CORPORATION

次に、2022年度の見通しです。

- 通期連結業績予想は、2022年4月27日発表の公表値を据え置いております。
- 第3四半期以降の為替レートは、期初の想定為替レートから見直しし、1USドル、130円、1ユーロ、135円を想定しております。

2022年度第2四半期連結累計期間は前年同期と比較して増収減益となりましたが、自助努力によるコスト削減を上回る原材料価格の高騰、電子部品や樹脂部品の調達難などの外的要因が主な要因となります。さらに、円安は海外向け売上を押し上げているものの、原材料コスト高の要因ともなっていることに加え、光熱費の高騰もあり、収益好転影響が限定的なものとなり、下期はさらに厳しい経営環境となる見通しです。今後もこれらの状況を見据えた対応に取り組んでまいります。

- 売上高は、630億円で15.5億円の増収。
- 営業利益は、12億円、純利益は7億円の見通しです。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

また、本資料では、業績の概略として多くの数値は億円単位で表示しております。決算短信等で百万円単位で開示しております数値を切り捨て表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが不正確に見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信または四半期報告書を参照していただきますようお願いいたします。

FDK

確かな技術 育てる未来